

## 令和5年度 第1回 志摩市社会教育委員会議 議事要旨

日時：令和5年6月20日（火）

午後1時30分～午後2時50分

場所：志摩市役所402・403会議室

### 開会

○事務局より、8人中7人が出席したため志摩市社会教育委員に関する条例第6条第2項の規定により、本会議の成立を報告

### あいさつ

○教育長挨拶

- ・ 学校では、引続き新型コロナウイルス感染症に注意しながら活動を再開しているが、コロナ禍において様々な可能性が見えてきたことや、どうすることが良いか考える機会となった。
- ・ 社会教育、青少年育成、生涯学習等含めて幅広く、社会教育委員の皆様に忌憚のないご意見をいただきたい。

### 委嘱状交付

- 新委員に委嘱状交付
- 委員・事務局自己紹介

### 委員長、副委員長選出

- 志摩市社会教育委員会運営規則により委員長及び副委員長を選出
  - ・ 事務局一任により田畑珠美委員を委員長に、西根隆委員を副委員長として提案  
→ 出席委員全員の賛同により決定

### 議題

○令和4年度社会教育関係事業(実績)について、事務局より説明

(出席委員からの質問・意見)

- ・ 二十歳の集いについて、参加者は何人くらいいたか。また市内在住者の人数は把握されているか。(委員)  
→令和5年志摩市二十歳の集い実績として、当日出席者361人、案内状は、全体で446人に送付し、うち令和5年10月1日時点で市内に住所のある者は、363人と把握している。二十歳の集いについては、令和4年成人式から、単に式典を開催するといったものではなく、市内の人口減少の状況から志摩市のことを考えていく機会にすることを大きなテーマとして新成人にアピールしてくれている。令和5年二十歳の集いでは、それを引き継いで地域のサポーターという形で団体の方々とつながりながら、志摩市のことをもっと知り、支えられてきたという実感をもって式典を経験してきた。今後も継続し、式典は、志摩市のことを考

える機会となる行事として変わりつつある。(事務局)

- ・ 総合型地域スポーツクラブ活動支援事業補助金について、初年度から継続5カ年が限度とのことであるが、初年度はいつで、5カ年が経過以降はどうなるのか。(委員)  
→初年度は令和4年度で、5年間本助成金の支給対象となる。その後については、基本的に他のスポーツクラブと同様に、例えば指定管理を受けて収入を得たり、自主的に財源を確保して団体運営し、5年間で自走できるように市が支援する形をとっている。(事務局)
- ・ スポーツ推進一般経費Vリーグ岡山シーガルズバレーボール教室について、長年に渡り実施されているが、現状でバレーボールに参加する子どもの人数などは如何。他の競技でトップアスリートを招いた事業を行っていないと思うが、中学校部活動も全体的に苦しい状況があると思うので教えていただけたらと思う。(委員)  
→市合併以前の旧志摩町の時から、山口舞選手が当時現役で携わり続けてきた事業で、バレーボール教室である理由はその経緯からである。バレーボールの競技人口に関して、中学校部活動では男子バレーボール部は文岡中学校の1校で、スポーツ少年団では、男子バレーボールは女子バレーボールに混ざって行っている状況である。市内スポーツ少年団のバレーボール団体は5団体あり、他のチームスポーツと比べて減少率は低いと思うが、全体的には減少している現状である。ニーズも捉えながら取り組んでいこうと思っており、今後どのように変えていくかは、実務者とバレーボール協会と一緒に議論をしているところである。他の競技種目がよいかは決めかねるところがあり、オリンピックがいる種目を軸に継続して取り組んでいるのが現状である。(事務局)
- ・ 例年どおりの資料であるが、参加人数等の推移や見通しを示していただくと、予算措置と合わせてわかりやすいように思えるが如何。(委員)  
→資料作成方法について検討する。(事務局)
- ・ 令和4年度に公民館の活用に関するアンケート調査があり、現地へ赴いたが、利用者は高齢者など限定的に思えた。公民館の他にコミュニティセンターなど有るが、地域の活性化に向けて社会教育に予算措置がなされ、起爆剤とは言わないが構築する考えをもっていかないといけないのかなと思う。市の方もそういうところを含めて考えていただきたい。(委員)
- ・ 生涯学習講座において高齢者対象のスマートフォン教室を受け、よかったと思った。高齢者の生涯学習は今後においても大事だと思う。(委員)
- ・ 生涯学習センターという名称の施設が公民館なのか、令和4年度のアンケート調査は難しいものであった。施設改修により調理室が事務所になったことで料理教室の機会が減ったと思ったこともあった。講座などでも興味があっても申込んだものが、希望者が少なくなってしまうと打ち切りになってしまうこともある。(委員)
- ・ 講座受講者は減っているのか如何。(委員)  
→令和5年度から通年講座の受講料を1,500円に上げた。受講人数について、コロナ禍以前との比較はしていないが、令和4年度からの減少はない。しかし、新しく受講する方が少ない。新規講座も開設しているが、今まで生涯学習講座を受講してきた経験がある方が、新規講座を受講するパターンが多い。そこに課題を感じており、社会教育委員から新たな講座の提案や講師の紹介などしていただける

と、より活発な講座を目指せると思うのでお力添えをいただけるとありがたい。  
(事務局)

- 公民館には、他にコミュニティセンターや地区で建設した公民館などがあるが、どのような活動が行われているかがわかりにくく、子どもの学びへつながるような働きかけが行いにくい。事務局で活動状況を把握されているか如何。(委員)  
→大枠として施設により担当部署が異なるため運用ルールも異なる場合があるが、公民館の利活用について、旧町の公民館という認識の面で、その地域住民しか利用できないと思っている人もいるようなので、周知していきたいと思っている。  
(事務局)
- 社会教育委員の役割の中に調査研究という項目があるが、公民館の役割が地域にとってどうなのか調査していないと学校への情報提供が難しい。協働と言われてきている中でベースとなるものが見えづらいので、コラボレーションできる仕組みなどが見えてくるとよいと思い活動状況の把握について聞かせてもらった。(委員)
- 青少年育成事業のジュニアリーダー研修会は例年行われているが、どんなことにつながっているか如何。(委員)  
→もともと市主催で実施していたが、令和3年度から志摩市青少年育成市民会議に委託し、地域の方々とより連携を強める形とした。集団研修会により、参加者相互の交流を通じて子どもたちの積極性、自立心、協調性、創造性などを養うとともに、郷土への愛着心を育て、将来地域のリーダーとして活躍される人材の養成を図ることを目的とし、市内中学校2年生を対象に実施しており、効果という面では明確に示すことは難しいが、二十歳の集い実行委員の中に、過去にジュニアリーダー研修会に参加した方を確認できたため、経験された方は、社会に出た時に、活動への参加に協調性をもって主体的に参加できるようになるのかもしれないといった所感である。(事務局)
- 図書館講座に関して、講師謝礼の金額の差は如何。(委員)  
→市の基準によるものであり、区分により謝礼金額が異なる。(事務局)

#### その他

- 三重県社会教育委員連絡協議会総会・全体研修会に参加し、事例紹介においては素晴らしい取組みに感じた。志摩市であればどのようなことができるのか、様々な考える機会となった。(委員)  
→郷土の学習は重要で、地元へ愛着を持った子が育つと考えている。小学校の社会科の中で地域を学ぶ時間が設けられており、様々な産業や暮らしのこと、また歴史のことも学んでいる。歴史民俗資料館の資料を使ってもらえるよう体制を整えていきたい。  
(事務局)
- 市内に歴史的要素のあるものや、文化財など資源や要素がたくさんあるように思うので、地域巡りなど共有できるような取組ができていたらよかったかもしれないと思うことがある。(委員)
- 学校地域連携といわれる中、社会教育委員がコミュニティースクールとの接点をもつような体制がない。社会教育委員がどう関わっていけばよいか、考えていただ

るとよいと思う。(委員)

→コミュニティースクールは、令和4年度で全ての学校で立ち上げ、学校教育課の範疇であるが、地域と学校との接点となるもので、様々な出会い学習などの大事な活動の場として位置付けていくことになると思う。社会教育委員の方々がどこかで携わることもよいと思っている。(事務局)

- ・ 学校地域連携に関して、学校教育のカリキュラムは誰が決めていくのか。(委員)  
→学校長中心にカリキュラムを組んでいく。(事務局)
- ・ どういったことだとカリキュラムに取り入れやすいといったことはあるか。(委員)  
→子どもにとって価値を見い出せることを学校中で検討し判断するが、どこに声掛けをすればいいのか迷うことや判断し難いこともある。体制が整えば、教科横断型の取組みや社会で学んだことを総合学習の時間で広げるなど、子どものためを思った時間を作り出すことはそれほど難しいものではないと思う。(委員)
- ・ 地域団体への取次や連携体制の取りまとめは教育委員会事務局が行うのか。(委員)  
→ご意見を聞かせていただいて、関連する団体や部署と連携が取れるように連絡を回すことはできると考えている。令和4年度に防災教育研修として東日本大震災時の実話が元になった映画観賞会を行った時には、様々な部署と連携して参加者を募り開催できた。(事務局)
- ・ 事務局より事務連絡
  - ① 三重県社会教育委員連絡協議会総会・全体研修会に関する報告
  - ② 三重県社会教育委員連絡協議会南ブロック理事選出に関する報告
  - ③ 情報発信強化を目的とする生涯学習スポーツ課の新規SNSの開設予定に関する報告(事務局)
  - ④ 三重県教育委員会事務局社会教育・文化財保護課「地域学校協働活動推進のためのコーディネーター養成講座」の案内(事務局)
- ・ G7三重・伊勢志摩交通大臣会合において、子ども達の活躍が注目され、東海中学校生徒による「安乗の人形芝居」、神明小学校児童の斉藤国土交通大臣へのインタビューなど、大変高い評価をいただいた。子ども達含め若い世代が社会の中へ活躍できる場を設けていただいたということに意味があるため紹介させていただく。多くの子ども達が将来一度市を離れた時に、自信を持って自分の故郷のことを話せるように育っていくとよいと思っている。(事務局)
- ・ 幅広い分野の中で、広がりのある議論をしていただけた。今後ぜひとも社会教育委員の方から議題を出していただいたり、事務局からも社会教育委員へ意見を求める案件を出せるようにして、社会教育等の実施につないでいければと思う。(事務局)

○傍聴者なし